広報かじき

No.364
昭和60年 2月号

発行 加治木町
編集 総務課

春一番

春一番――という言葉をきくと、やれやれ、どうやらこれで冬も終わりかとホッとするような気分になります。

春一番とは、文字通り春の訪れを告げる強い南の風ですが、日本海の低気圧に向かって太平洋の暖気が吹き込んで起こるもので、時には初夏のような暖かさになります。

春一番は、一方でさまざまな災害をもたらすことが多いので、海釣りや登山に出かけるときは十分注意しましょう。また、火の元にはくれぐれもご用心。

全力をつくしてゴールイン（町内一周駅伝大会）

幼年消防隊も初出動

町消防団出初め式

町長の観閲を受ける団員

新春のへき頭を飾る町消防団（大吉操団長、団員百六十二人）の出初め式が一月十一日、役場グラウンドで挙行され、今年は川野保育所に昨年八月結成された幼年消防隊も初参加しました。

式典に先立ち消防団員が、国分自衛隊の音楽隊を先頭に、蒲生田通りをパレードし防火を呼びかけました。

式典は十時から行われ、町長や来賓の観閲を受けた後、西別府分団が小型動力ポンプの操法を、また、中央分団が自動車ポンプの操法を披露しました。

また、川野保育所・幼年消防隊三十人によるきびきびした規律訓練や、新春の青空に向け十本の見事な水のアーチを描く放水演習に集まった来賓や観衆から盛んな拍手が沸きました。

式典では、これまで消防活動に功績のあった次のかたがたの表彰が行われました。（敬称略）

▽県消防協会姶良伊佐支部長表彰

郡山　利春　（元団長）
有馬　義則　（錦江分団　班長）
塩屋　政秋　（錦江分団　団員）

▽町長表彰

◎勤続章（三十年）

東　光義　（副団長）
寺師　榮　（錦江分団　班長）
川村　吉弘　（錦江分団　団員）

◎勤続章（二十五年）

立山　経弘　（中央分団　班長）
楠本　洋一　（錦江分団　班長）

◎勤続章（二十年）

鶴　幸男　（西別府分団　班長）
長谷　正治　（中央分団　団員）
外村　秋夫　（西別府分団　団員）

◎勤続章（十五年）

有馬　義則　（錦江分団　班長）
塩屋　政秋　（錦江分団　団員）

◎勤続章（十年）

宇都　和義　（中央分団　団員）
上村　親　（中野分団　団員）
山下　喜之　（中野分団　団員）
緒方　勝也　（小山田分団　団員）
前村　勝男　（辺川分団　団員）
田代　快男　（辺川分団　団員）
岩元　道男　（辺川分団　団員）
小宮路久則　（辺川分団　団員）

◎団員表彰

江口　治男　（錦江分団　団員）
三宅　利広　（小山田分団　団員）

◎無火災表彰

辺川分団（連続十四年間）
中野分団（連続　五年間）
西別府分団（連続　四年間）
中央分団（一年間）
錦江分団（一年間）

◎町長感謝状

郡山　利春　（元団長）
宮内　時雄　（元辺川分団　班長）
岩穴口　修　（元錦江分団　班長）
今中清一朗　（元中央分団　班長）
久木田虎二　（元西別府分団団員）
榎谷　則良　（元西別府分団団員）
向江　良規　（下嶽自治会）

▽消防団長表彰

吉村　正和　（中央分団　団員）
築瀬　鉄憲　（錦江分団　団員）
内村　重義　（西別府分団　団員）
福元　剛　（小山田分団　団員）

▽町消防後援会連合会長感謝状

郡山　利春　（元団長）
遠矢　義一　（元小山田分団班長）
榎田　正幸　（元中野分団　班長）
坂元　勲　（元中野分団　班長）
緒方　信吉　（元小山田分団団員）
畠中　修一　（元錦江分団　団員）
緒方　進　（元中野分団　団員）

春季全国火災予防運動
二月二十八日～三月十三日

幼年消防隊

ふるさとから はたちの旅立ち

254人が大人の仲間入り

キャンドルセレモニー

大人の仲間入りをした新成人者二百五十四人（男性百十四人、女性百四十人）を励ましお祝いする昭和六十年町成人式が、一月十五日福祉センターで厳粛なうちにも盛大に行われました。

式典は、十時から曲田明美さんら新成人代表によるキャンドルセレモニーで開会。乙須教育長は「国際青年年の意義ある年に成人式を迎えられた皆さん。未来を築く新成人になって欲しい」と式辞を述べました。

また、東町長は「どのような困難にも立ち向かい、逆境に負けない成人になって欲しい」と激励しました。

この後、成人者から町へ記念樹が贈られ、また、内村伸二さんと徳寄敦子さんの二人が〝はたちの抱負〟を力強く発表し、盛んな拍手を受けました。

アトラクションでは、本町在住の池端ミチ子さんがすばらしい歌声を披露し、新成人や式典参加者を魅了しました。

この式典の裏方として町青年団の大宮路和也会長ほか団員らが受付や会場整理を手伝い、後輩の成人を祝福しました。

はたちの抱負

紙面の都合により、一部省略して掲載いたしました。

相手を気遣う気持ちを

徳寄敦子さん

私は、高校卒業と同時に実社会へ出ましたが、学生時代に学んだわずかばかりの知識はあったものの、さすがに自分の業務を消化し、先輩におくれまいと、仕事をしていくということは「難しい事だなあ」と思い、時には挫折感を覚えます。

まず、自分のする仕事に対して重い責任がのしかかってくるということです。私は今、南九州コカコーラボトリング株式会社溝辺営業所に勤務し、コンピューターを使っての経理事務を行っています。何か一つの仕事を終え、本社へ書類を提出する場合も、自分がした仕事として押印し、上司に見てもらい、それから送らなければなりません。何か間違った所があれば、名差しで自分の所へ言ってくるのです。そんな時、自分で内容を正確に理解していなければ、訂正することができません。わからないからと言って、もたもたしていれば、自分に対しての信頼を失うわけです。私は今まで、上司の方に頼りきっていたような気がします。でもこれからは、真の一社会人としてのプライドをもち、自分の仕事に責任を持てるように努力したいと思います。

徳寄敦子さん

社会に出て、何より難しいことは、人間関係だと思います。ちょっとした話しの中でも相手の心を傷つけたり、自分で傷ついたり、さまざまなことがあります。自分がいやな思いをしたからといって理性を失うようでは、あまりにも大人気(おとなげ)無いと思います。こんな時にでも、相手を思いやり、周囲に対して少しでも気くばりができればなあと思います。

私は、社会人として仕事をしています。学生の方々には、ピンとこないかもしれませんが、お互い、成人になったからには、自由の中にも責任をもち、相手を気遣う気持ちをもち、勇気ある行動の中にも、成人としての理念をもてるよう努力したいものです。

二十年という歳月の間には、さまざまな出来事がありました。その度に、共に喜び、共に苦しんでくださいました両親をはじめ、恩師、諸先輩方、多くの友人に深く感謝するとともに、町が将来像と目指している「市民生活が躍動する文化的な居住都市」を達成させるため、微力な私たちですが、一人一人の責務を果すことを約束申し上げ、努力していきたいと思います。

郷土に役立つ何かを

内村伸二さん

内村伸二さん

私は高校卒業後、就職し、既に社会人の一員として二年余り過ごしてきました。そのためか、成人式を迎えることにより、それを境に、大人としての責任や義務を負うことになり、また大人としての権利が与えられることになるんだと言われても、今一つ実感としてわいてこないのが卒直な気持ちでした。

それは、これまでの二年間、一応まがりなりにも一人前の大人としてやってきたんだという自負が心の片隅にあったからかもしれません。とは言うものの、改めてこの二年間を振り返ってみますと、実は親に甘え、周りの先輩や友人に助けられている自分が見えてき気分は大人でも、やってることは子供と同じだったのではなかったのだろうかと、つくづく反省させられるしだいです。

私も本日を境にして、本当の大人社会への仲間入りをするわけです。そこで改めて、私に課せられた責任や義務、すなわち親を愛するとともに、職務に精励し、社会人として恥ずかしくない行動の心要性を認識し、また、与えられた権利、端的に言えば選挙権を有効に活用し、早く一人前の大人と言われるようにと決意し直すしだいです。

さらに今年は、たまたま国際青年年であるとも聞いています。このような年に成人式を迎えられたことも光栄ですが、そのスローガンとして「始めよう今、見つめよう未来」という言葉が掲げられています。現代は「人生八十年」と言われていますが、私たちは今、いわば第一コーナーを過ぎたばかり、明日の鹿児島を見つめ、少しでも郷土の役に立つ何かを今日から始め、そしていつかは成し遂げたいとも考えるしだいです。

20歳になったら国民年金に加入しましょう

二十歳になると、成人として多くの権利と義務が生じますが、国民年金への加入もその一つです。

国民年金は、厚生年金など職場の公的年金制度に加入していない人、たとえば農林漁業、商工業、サービス業などの自営業者とその家族や、従業員五人未満の職場で働く人とその家族のために、国が行っている年金制度です。

六十歳になるまで保険料を納めると、六十五歳から老齢年金を受けて、生活の安定を図ることができます。

また、国民年金に加入し、保険料を納めていると、病気や不慮の事故などで障害者になったり、母子世帯になったとき、障害年金や母子年金で保障されます。

成人式を迎えられた皆さん。加入手続き及びお問い合わせは、住民課の年金係へどうぞ。

印鑑もお忘れなく……。

◎国民年金の保険料は、全額が社会保険料として所得から控除され、課税の対象とされません。

第九回「はたちの献血」

一月七日～三月七日

一月から三月の冬季は毎年献血者が最も少ない時期です。献血運動に皆さんのご協力をお願いします。

竜門東元長寿会が優勝

第６回ハマ投げ大会

町老人クラブ連合会主催の第六回ハマ投げ大会が、一月十一日町営グラウンドで行われ、腕に自慢の明治青年六十五人が参加し、熱戦を展開しました。

結果は次のとおりです。

▽**団体戦**…優勝竜門東元長寿会②岩原チーム③高城老人クラブ▽**個人戦**…優勝東郷龍太（東元長寿会）②畠中哲夫（東元長寿会）③猪目栄（高城老人クラブ）

ポットを手にハマの打ち合い

空き缶の投げ捨てが目立つ

衛生協会員が河川診断

町衛生協会（柊山大平会長、理事十六人）では十二月二十四日、綱掛川と湯ノ谷流域の河川診断を実施しました。

これは、河川の状況を調査するとともに河川をきれいにしようと毎年二回行っているもので、この日は寒風の中、町営温泉から錦江橋まで、川の両側に分かれ空き缶やごみを拾って歩きました。

「昨年実施した時に比べると、少なくなっている」とはいうものの、川原のあちこちに空き缶が投げ捨てられており、理事のかたがたが手にした袋は、たちまちいっぱいになっていました。

みんなで河川をきれいにしましょう。

河川診断を行う衛生協会員

もちつきとゲートボールでふれ合い

天神の子供会と長寿会

天神の子供会（東中村光輝会長、会員二十四人）と長寿会（長谷正治会長）では、クリスマスの十二月二十五日もちつきとゲートボール大会を行い、楽しい一日を過ごしました。

もちつきは、十二時から行われ子供たちは長寿会員やお母さん方がつきあげた十キロの餅を一生懸命に丸めました。

また、ゲートボールは子供たちにも大人気で、男女別に分かれ、寒風をついて長寿会員と子供たちの対抗戦が行われました。

ゲートボールの後は、おまちかねのぜんざい会。子供たちが丸めた餅がいっぱい入ったぜんざいにみんなで舌鼓を打ちました。

こんなに上手にできました

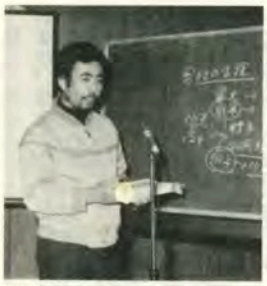
妊娠のしくみなどを学習

結婚教室を開催

未婚の青年男女を対象に幸福な家庭生活を営むための基礎的な知識を習得してもらおうと、町青年団連絡協議会が町や保健所の協力を得て結婚教室を開催しました。

結婚教室は二回にわたって実施され、一回目の一月九日は開講式の後、第一産婦人科の窪田院長を講師に招き、男女の生理や妊娠のしくみなどについての講議が行われ、参加した二十五人の男女は熱心にメモを取ったり、質問していました。

二回目の二月六日は、人権擁護委員の宮城俊治さんが「結婚と法律」について講議を行いました。



窪田院長の講演

吹奏楽や混声合唱を発表

第６回町合同演奏会

第六回町合同演奏会が一月十三日、柁城小学校やあいら幼稚園、加治木中学校、加治木高校、加治木工業高校とコールのばらの六団体が参加し、福祉センターで開催されました。

会場では、あいら幼稚園の園児四十一人とカラーガード隊八人による「アイアイ」や「黄色いリボン」の合奏や加治木中学校のリコーダーアンサンブルなど練習を積んできたすばらしい発表に盛んな拍手が沸いていました。

役場職員の異動

（　）内は旧課

二月一日付

経済課参事（経済課長）松元貢▽経済課長（農業委員会事務局長）東清治▽農業委員会事務局長（学校給食共同調理場長）猪目明▽学校給食共同調理場長（監査委員書記）城正昭▽監査委員書記（体育保健課長補佐兼係長）杉田淳平▽体育保健課長補佐兼係長（税務課徴収係長）重昭実▽税務課徴収係長（経済課畜産係長）今薗敬介▽経済課畜産係長（経済課）福森徳昭▽経済課（収入役室）二見和彦

退職（十二月三十一日付）

四元義照（住民課参事）

篠崎利治（総務課参事）

心の善意を呼び起こし すみやすいふるさとづくりを

サンライフ「小さな親切」運動交流会

いつでも、どこでも、だれでもできる親切運動を、地域ぐるみの運動として定着させるため、サンライフ「小さな親切」運動交流会が、一月二十日福祉センターで開催され、子供からお年寄りまで約三百人が参加しました。

町サンライフ運動推進協議会の東國雄会長は「親切は、わかっていても勇気のいるものでありなかなか出来ない。今、親切の心が失われ、住みにくい世の中になってきている。サンライフ運動の明るい生活づくり運動と〝小さな親切〟運動が一体となって、心の善意を呼び起こし、すみやすい世の中を作ってゆくことが大切です」と開会のあいさつを述べました。

交流会では、それぞれの運動について説明の後、「小さな親切」運動の実践事例が発表され、ともしび会の池端ヒデさんが、体の不自由な人や高齢者の世話をしてこられた体験談を、また、加治木女子高等学校の山口一歩先生が、学校ぐるみで河川の清掃や望岳園などの慰問を行っている活動について報告しました。

また、文化センターの初代館長夏目漠先生が「世なおしとしてのボランティア」と題して「昔は、社会に悪い事があればみんなで直すことをしていた。気づいたらその場で、良い事はほめ、悪い事は止め、危険な事をしていれば注意し正しい生活をするよう指導する事が大切です」と講演しました。

表彰を受けられたかたがたは、次のとおりです。（敬称略）

◎「小さな親切」実行章受彰者

大脇ツミ子、丸野ハル、岩城すみえ、妹尾加代子、瀬戸口キミ子

◎「小さな親切」作文コンクール入賞者

永原小学校…福森みか、内村ひろつね、隈原由里子、日高のぞみ、山道恵美、遠矢香識

竜門小学校…地久里武志、日高みどり

柁城小学校…上枝ともみ、上新ひとみ、宮原華織、田辺祥、吉丸京子

錦江小学校…山之内けい、久木元とも子、向江真智子、内野理恵、宮園真理、吉永さおり

加治木中学校…井手恵、星野かおり、徳重博子

実践事例を発表

火災警報器を町に寄贈

福永和則さん（小陣）

小陣の福永和則さんが「町で活用してください」と、ファミリー火災警報器十六個を十二月二十七日、町へ寄贈しました。

町では、さっそく独居老人宅などの火災に備えようと、民生委員を通じてそれぞれの家庭に配布することにしています。

ありがとうございました。

福永和則さん

郷土史探訪 20 私学校分校

明治七年私学校が鹿児島に創立されると、加治木では川上親晴、中摩直助などの肝いりで分校設置の運動が起こりました。

当時の戸長は初代村長になった石神安光で、川上・中摩の二人は相たずさえて戸長を訪問し分校の設置について嘆願しました。約三か月してようやく入れられ、明治八年実現の運びとなり、外城では一番早く開校されました。

敷地は、現在の柁城小学校のところで、初め生徒は百人ぐらいでしたが日がたつにつれ多くなりました。

定日に生徒を集め、教師の講演を聞いて知徳を高め、軍書、武芸の研さんに努め、山野をぱっ渉して足腰を鍛え、青壮年でこれに入学しない者は恥といわれる程になりました。

そのころ、大山県令は西郷隆盛と相謀り、県下の区制を整理し、区長、戸長、学校長などに私学校の関係者から抜てきして任命したため、私学校の勢力は自治体にまで及び、また、私学校も勢力拡大に努めたので、西郷さんの声望と相まってますます盛んになりました。

明治十年の役には、分校生徒全員が参加。八百余の壮士が従軍し、百六十余名の戦死者を出しました。

現在、郷土館にある「敬天愛人」の南洲書は、加治木分校のために贈られた縦書きの直筆で日本にただ一つといわれています。

南洲書の「敬天愛人」

「小さな親切」運動 実践事例

この作文は、一月二十日福祉センターで行われたサンライフ「小さな親切」運動交流会で発表されたものです。

日高みどりさん

わたしの姉の看護をして

竜門小学校六年　日　高　みどり

わたしたちの周囲には、たくさんの体の不自由な人がいます。わたしの姉もその一人なのです。

小児まひという病気で、現在も南九州病院に入院しています。病気の状態は重度で、起きること、話すことが自由にできません。

食事も看護婦さんに食べさせてもらっています。自由に手にとって食べられないけど、きらいなものは、頭を横にふり、気持ちを表すことができます。

夏休みに入ってしばらくしたころ「みどり、姉ちゃんを迎えにいっど。準備はよかね。車を出すからね」となんとなく軽やかな母の声です。「あっ、姉ちゃんはお盆休みだね。あしたからいっしょにすごせるんだね」

わたしは母と顔を見合わせて、にこっとしました。久しぶりに帰って来るのです。

姉が帰ってくると、たちまち家中が明るくなり、にぎやかになります。

「ちえみ、ちえみ」と声をかけると、母の声には決まって「はあーい」と大きな声で返事がかえってきます。わたしたちの時は、気げんの良い時だけのようです。

家での看護婦さんの役目はわたしです。母から、世話をたのまれますので引き受けています。

朝のすずしい間には車イスに乗せて散歩に出かけます。姉の顔を見ながらそっとおすのです。

「暑いなあ。みどり、ぼうしをかぶせて」という表情の時は、すぐぼうしをかぶせます。

「あの、きれいな花をとって」

「木かげは、ゆっくりおして」

「ちょっと汗をふいて」など、姉が言おうとしている事は、どんなことでもわかります。なぜなのかわからないが、姉の考えが自然にわたしに伝わるような気がするのです。

でも、姉の看護婦として合格しない部分があります。一つは、オムツ交換です。わたしはまだできません。重いことと、その要領がわからないのです。二つめには、ふろに入れることです。これは、母でないと、とてもわたしにはできません。力がいるので持ち上げられないのです。その時はすぐ母の手伝いにまわります。タオルや石けんの準備を手ぎわよくしないとなりません。気持ちよさそうな姉を見ているとかわいいです。

そんな時、わたしはふと思ったのです。姉の世話をしてくださっている看護婦さんたちはとてもたいへんな仕事をしていらっしゃるんだと……。白い帽子と白衣を付けた姿は女の子のあこがれの的で、外から見たら簡単な仕事のようですが、実際は大へんな仕事なんだと思うようになったのです。

それはただ仕事をするということだけでなく　そこには真心のこもった親切が必要だということです。ただ、仕事をするというのはだれでもできるでしょう。しかし、親切な心で仕事をするというのは難しいように思います。姉の世話をしながら、そんなことを思いました。

十日間の夏休みが終ると、病院の方へ帰さなくてはなりません。

言葉は不自由で話せないのですが、おそらく、わたしたちの表情で感じるのでしょう。帰る日はすごく静かな表情をしています。

そんな時は、わたしも涙が出そうです。

これから先、こんなことが何回続くだろうか。いつもいっしょに生活できるようになれればよいけどなあと思います。できることならずっと、姉のめんどうを見てあげたいです。

もし、わたしのねがいがかなうならば、大人になったら世の中の身体の不自由な人たちに親切な心を少しでもあげられるような仕事をしたいです。

上枝ともみさん

わたしのした小さな親切

柁城小学校二年　上　枝　ともみ

きょ年の九月二十五日、学校から帰っていたら、道ばたで、きんじょのりえちゃんが、大声でないているのに会いました。りえちゃんというのは、近くの三さいの女の子です。

「どうしたの」と聞くと、りえちゃんは「ばあちゃんもかあちゃんもいないの、エーン、エーン」と泣くばかりです。

わたしは、ばあちゃんたちは買いものにでも行ったのだろうと思って、少しまちました。でも、なかなか帰ってきません。りえちゃんは、まだ顔をまっ赤にしてないています。

わたしは、だんだん心配になってきました。もう、このまま、りえちゃんをおいて帰ろうかと思いました。でも、りえちゃんがかわいそうで、やっぱりいっしょにまちました。

十五分ぐらいして、おばちゃんたちが帰ってきました。りえちゃんは「やったあ」といってとび上がりました。わたしもほっとしました。

「りえちゃん、よかったね」といったら、りえちゃんは「おねえちゃんは、やさしいね」といいました。わたしは、とてもうれしくなりました。

走って家に帰りました。きょうは、とてもつかれたけど、親せつをしたので、とっても気もちのよい日でした。

これからも親せつをたくさんしたいと思います。

できる親切は
みんなでしよう
それが社会の
習慣となるように

もしも勇気と思いやりが持てたなら

錦江小学校六年　吉永さおり

吉永さおりさん

つい最近のことである。友だちの郡山さんと学校から帰っている途中、一人の見知らぬおばさんから声をかけられた。

「須崎口のバス停はどこね」

わたしたちは、須崎口のバス停までこのおばあさんを連れて行ってあげることにした。

十分くらい歩いただろうか。おばあさんがハアハアいってしゃがみこんだ。心配になったわたしたちが「どうかしましたか」と、顔をのぞきこみながらたずねると、「すまないけど、タクシーを呼んできてくれんね」と言われた。

そこで、わたしたちは近くの友だちの家へ走った。友だちのお母さんにわけを話すと、おばさんは喜んでタクシー会社に電話をしてくれた。そして、すぐ来てくれるようにたのんだ。わたしと郡山さんが、急いでおばあさんの所へもどると、元気になったのか、おばあさんは通りがかりのおばさんと話をしておられた。

「近ごろの子供は、悪い事ばかりするかと思っていたら、こんなに優しい子供たちもいるんですね。わたしみたいな年寄りには、かまってくれないと思っていたら、とても優しくしてくれるから助かります」

わたしたちはその言葉がうれしくて、二人で顔を見合わせて笑った。笑っていると、おばあさんはさいふを取り出して、わたしたちにお礼のお金をくださろうとされたので、あわてて「いいですよ。わたしたちのほんの心づかいですから」と断った。すると、おばあさんは目に涙をいっぱいためて、「なんて優しいのね。じゃあ、お金がいらないのだったら、わたしの感謝の気持ちとして」と、みかんを一個ずつくださった。そのみかんには、何かしらおばあさんの手のぬくもりが感じられた。また、本当におばあさんがわたしたちにありがたく感謝しているのだと思うと、うれしくてたまらなかった。

それから五分くらいしてからタクシーが来た。タクシーの運転手さんも「君たちのおかげで助かったよ。ありがとう」と言ってくれた。おばあさんも「本当にありがとうね。こんな年寄りにつきあって。帰りが遅くなったから気を付けて帰りなさいね。ありがとう。さようなら」と言って、車の窓から首を出していつまでも手を振っていた。わたしたちも見えなくなるまで見送った。

帰って、その事を母に話すと、とても喜んでくれた。その夜、わたしはおばあさんの笑顔が思いうかんできて、なかなかねつかれなかった。人に親切にする事がこんなにうれしい事だとは知らなかった。わたしは、何だか自分の心が豊かになったような気がした。

「小さな親切」作文コンクールの表彰

わたしは、おばあさんに対して親切のつもりで行動したのではない。お年寄りに対して当り前の事をしただけだ。お年寄りは、体も弱くなり、何かと不自由だから優しくしてあげただけの事だ。

でも、親切をするのにもいろいろあると思う。一番親切に出来ないのが、身体障害者の人たちに対してではないだろうか。街の横断歩道で障害者の人たちを見かけた時、声をかけていっしょに手をひいてわたろうとする勇気がわたしたちみんなにあるだろうか。ほとんどの人がないと思う。

声をかけようか、どうしようかまよって、その人を見ているうちに逆に障害者の人たちの目には、差別するような目でジロジロ見られているように思われたりする事だってあるかもしれない。

でもこれからは、勇気を出して、まよわずにさっさと声をかけたり手をひいたりすることの出来る人間になろうと思う。

このようにして考えてくると、人に対して親切にする事は、とても勇気のいる事だという事が分かる。だからこそ勇気を出して人に親切にしてあげられたら、たとえそれがどんなに小さな親切であっても、大きくりっぱな行いをしたことになるのではないだろうか。

もしも、本当の「勇気」と「思いやり」が持てたなら、小さな親切はもっともっと増えるだろう。これからは、親切に勇気と思いやりを持てるようにしようと思う。

だって親切なんて勇気と思いやりさえあれば、何はなくても簡単に出来るのだから――。

健康診査

（3月）

行事名	該当者	日程		受付	場所
三か月児健康診査	59年11月5日～59年12月4日生まれ	4日(月)		13時30分から	福祉センター
母親学級		20日(水)			
一歳六か月児健康診査	58年8月27日～58年9月26日生まれ	26日(火)			
胃がん検診	満四十歳以上	5日(火)～9日(土)	11日(月)～15日(金)	7時30分から	

初の女子の部に九チームが参加

第十八回町内一周駅伝大会

第十八回町内一周駅伝大会は、今年初めて設けた女子の部を含め五十三チームが参加し、一月二十七日七区間で健脚を競いました。

女子の部には、中学生七チームと高校生・一般各一チームの九チームが参加し、沿道の観衆から盛んな声援を受けていました。

また、オープン参加は四チームで、今年は垂水市からも一チーム出場しました。これは、町の走友会が垂水市の大会に参加していることへのお礼を兼ね、応援にかけつけたもので、日ごろ鍛えた健脚を披露しました。

表彰式では、五十歳以上の初出場者七人に対し教育長から「今後一層の精進を期待します」と特別表彰が行われました。

男子のスタート（加治木高校）

女子も同時にスタート

結果は次のとおりです。

〔**一般の部**〕優勝…姶良西部消防A（一時間九分九秒）二位…役場A（一時間十一分二十秒）三位…走友会A（一時間十一分五十秒）

◎**区間賞**▽一区原口正則▽二区榎田洋一▽三区薗田英実▽四区厚地和彦▽五区小宮路昭一▽六区安藤政司▽七区馬場勉

〔**高校生の部**〕優勝…加治木工業陸上部A（一時間六分一秒）二位…加治木高校陸上部A（一時間八分十八秒）三位…加治木工業野球部A（一時間十分二十九秒）

◎**区間賞**▽一区有園正直▽二区米丸伸一▽三区祐福悦郎▽四区福丸輝人▽五区白浜諭▽六区森田芳久▽七区宮城雄一郎

〔**中学生の部**〕優勝…加中陸上部A（一時間十分三十八秒）二位…加中サッカー部A（一時間十二分二十四秒）三位…加中野球部A（一時間十二分五十九秒）

◎**区間賞**▽一区中村伸一郎▽二区長谷修▽三区市来原久己▽四区宮原憲一郎▽五区渋谷強▽六区岩元進二郎▽七区外村幸一郎

〔**女子の部**〕

中学生の部優勝…加中陸上部A（五十五分五十九秒）二位…加中テニス部（五十七分四十九秒）三位…加中陸上部C（五十八分三十秒）

◎**区間賞**▽一区加藤瑞恵▽二区森千穂子▽三区上枝和代▽四区四元美紀▽五区山崎さつき▽六区寺園直子▽七区石川亜由美

高校生の部優勝…加治木高校水泳部（五十七分十九秒）

一般の部優勝…妃蕎薇（一時間七分四十秒）

《**特別表彰**》上村正行、岩切保、上枝隆、瀬戸口悟、酒匂岩治、竹内敬一郎、池田初夫

沿道の声援を受けて

青少年の豊かな心を育てよう ㉔

青少年教育

鹿児島・加治木の流れ（その5）

『郷中教育と毓英館』

郷中教育は「方限」（自治会的なもの）に居住する青少年の異年齢間における親密な人間関係の中で、年長者が指導者となって年少者の指導にあたり、共励切磋して心身の鍛錬と学習に励む青少年教育の組織とされています。なお、周囲に地域の大人（父兄・先輩）の指導及び組織の支えがあったといわれています。

年齢の区分は、およそ次のようなものであったと思われています。

稚児――小稚児…六、七～十歳
長稚児…十一～十四、十五歳

二才（元服・青年）十四、五～二十四、五歳

長老（通常妻帯）二十四、五歳以上の先輩

六歳から二十四、五歳までの十八、九年の長幼集団の日々の心身鍛錬と学習で人格形成がなされたと思われます。

加治木の毓英館を中心とした地域での稚児達の年中行事として、正月七日の鬼火（正月飾りなどを焚く魔除けの行事）、十四日の孕（新婚を祝い、家の繁栄を願う行事）、八月十五日の綱引きなど、異年齢間の中で伝統行事、文武を行ったといわれています。また、一般の組織の流れは「二才」が「長稚児」を、「長稚児」が「小稚児」の指導とめんどうをみ、それぞれ「稚児頭」「二才頭」が選出され、集団のまとめをしました。

特に二才頭は「郷中頭」と呼ばれ、郷中教育組織の全責任者となり、郷中活動の相談事は、「長老」にもちかけ、あるいは長老から二才を呼び懇切に指導しました。

私たちも「子ども会」などの中で、小・中学生に異年齢の行動様式を、現代の諸行事を通して実践させたいものです。

善意の毛布百四十七枚と三万七千円余りの募金が

アフリカへ毛布を送ろうキャンペーン

干ばつと飢餓に苦しむアフリカ難民を救うため、日本国際連合協会鹿児島県本部が主催し「アフリカへ毛布を送ろう」のキャンペーンが、一月十四日から二十三日まで県内全域で取り組まれ、町内でも個人や団体から暖かい善意が寄せられました。

アフリカは、厳しい干ばつに見舞われ、一億五千万人にのぼる人人が飢餓あるいは栄養不足のために生存の危機に直面しており、さらに被災地の一部では飢餓に加えて、夜間には気温が摂氏十度を下回る急激な冷え込みのため、多数の人々が苦しんでいます。

キャンペーン期間中、個人をはじめ中塩入婦人部や、札立・隈原・新中・岩原東などの生活改善グループ、大井病院や望岳園など多くのかたがたから善意の毛布百四十七枚と三万七千七百九十六円の募金が寄贈されました。

集まった毛布は、県を通じて東京の「アフリカへ毛布を送る会」に送られ、会によりエチオピアやスーダン、モザンビークなどに届けられることになっており、募金は毛布をアフリカへ送る資金として使われます。

町に10万円寄贈

後藤イクさん（姶良町）

先日九十二歳で死去された姶良町在住の後藤英橘さんの妻イクさんと長男の徳司さんが「故人は戦前・戦後加治木町で弁護士事務所を開いており、大変お世話になりました。町のために役立ててください」と、十万円を一月二十一日加治木町に寄贈されました。

後藤さんは、萩原の出身で、昭和二十一年六月に姶良町へ転居されています。

町では、故人のごめい福をお祈りするとともに、寄付金は「町育英奨学資金」として青少年の健全育成のため活用することにしています。ありがとうございました。

竜門の会

浮島は芦枯れ伏しぬ風の道　上野　光

動かざる雲茜して寒に入る　加藤　白柳

止り木に単身赴任の霜の夜　須藤　洋子

鷺群れて舞ふや凍雲うつす池　柳田　稔

風花や山に訝す石切場　川崎　黒兎

山並みは雪となるらし根深汁　鶴田　耕

子も孫も去りし七日の素粥かな　横山　江南

波止の凧噴煙遠く流れけり　井之上透山

賀状読むその添え書きの温もりを　高木　正男

時雨るるやしきりに鳩の羽づくろい　内田美津代

東雲の輝き見ゆる初日の出　川上　節子

師と舞ふを許されし身に寒椿　古江　重美

うらら日の後るるバスを楽しめり　三浦　ゆう

高血圧

薬草　知られざる効き目　⑰

血圧を気にする方は少なくありません。

最近は、若年性高血圧症の人も増えています。食生活の影響でしょうか。

でも、先人たちが日常の食生活に取り込んだ、次の方法を知っていればためになります。

小さめの干しシイタケ四～五個を大きめの湯飲みに入れ、ぬるま湯を注ぎます。夜、床に入る前にこしらえておき、朝起きぬけにその汁を飲むのです。これは、空腹時に飲むことが大事で、早い人は一週間、おそくとも一か月で効果があるそうです。

女性では、皮ふの弱いところがかゆくなる方がありますが、その時はおやめください。

シイタケは、朝の味噌汁に、昼のそうめんのだしに、夜の煮しめに常用してください。

ヨモギの青汁は即効があり、乾燥して煎服しても効果があるそうです。

塩辛いもの、肉、バター、卵類、いか、たこ、鯉、うなぎなどは避けるべきで、野菜食をモットーとしてください。セリ、よもぎ、どくだみ、たらのき、柿と桑の若葉もよろしい。

こぶ水もよく、酢卵も一個分を五日に分服します。

クコは更によろしい。一年中若芽をおひたしにして食べられるし、味噌汁に入れてよし、陰干しにしてクコ茶で服用、秋には赤い実をしょうちゅうにつけこむ楽しみもあります。

これらは民間伝承の方法ですから、お医者さんにかかりながら実用されることが肝要…。

（筆者　上萩大治）

※無断転載はご遠慮ください。

日曜在宅のお医者さん

月日	在宅医	科	電話番号
3月3日	平山医院	内科	62－2468
10日	大井病院	内・外科	63－2291
17日	加治木温泉病院	内科	62－0001
21日	壱岐医院	内科	62－2222
24日	池田医院	内科	62－2220
31日	大川医院	内科	62－2032

▽診療時間は、原則として午前九時から午後五時までです。

また、当日の往診ならびに緊急以外の受診はご遠慮ください。

お知らせ

寒い夜は水道の破裂に注意を

ちょっとの心がけで凍結や破裂が防げます。次のような所の蛇口やパイプは注意してください。

▽むき出しになっている所▽北向きにある所▽日当りの悪い所▽風当りの強い所

防寒の仕方として、パイプや蛇口には保温材を巻きます。布などを巻いて、その上からビニールで包んでも良いのです。

凍結して水が出ない時は、タオルなどをかぶせ、蛇口の先の方からぬるま湯をゆっくり掛けながら溶かします。

熱湯は、掛けてはいけません。

破裂してしまった時は、まず止水栓のハンドルを右に回して水を止めてください。

次に、破裂した所に布やビニールテープなどをしっかり巻いて、ひもなどでしばり、応急処置をしてください。

町水道工事店の資格を取り消す

町水道事業指定水道工事店の三昌住設工業（電話六二一二〇七三）の資格が、一月十六日付けで取り消されました。

家族ぐるみで加入を

交通災害共済

交通災害共済は、町民がお金を出し合って、不幸にして交通災害にあった人を助け合う制度です。

万一に備え、家族ぐるみで加入しましょう。

▽掛金

年間一人　三百六十円

▽期間

昭和六十年四月一日から昭和六十一年三月三十一日まで

▽見舞金　一等級百万円から九等級一万五千円まで障害に応じて支給されます。

◎加入申し込みは、役場・住民課（電話六二一二一一一）へどうぞ。

「田の神」三十七体を一堂に

郷土館で写真展を開催中

郷土館では一月から町内の「田の神さあ」写真展が開かれています。

江戸時代、薩摩の農民は厳しい上納に苦しみながら、ひたすら田の神さあに祈願し、営農に励んできました。

今も町内のあちこちに、田の神さあが大事に祭られています。

南九州地方しかない田の神石仏は、三千五百体ぐらいあるだろうといわれていますが、このうち町内にある三十七体の田の神さあの写真を撮り、それぞれに説明を付けて展示されています。

郷土館の白尾先生は「ぜひ多くのかたがたに見ていただきたいと思います。そして、この他にもまだ町内には田の神さあが保存されているかもしれないので、ご存じの方は連絡して欲しい」と、話されました。

郷土館の電話番号は六二一二六〇五です。

田の神の写真を展示

うぶ声

出生児　保護者　自治会

榎屋　拓郎　國彦　豊町
大内山　航　伸一　豊町
下野真裕美　哲裕　内原田
小原　怜仁　光雄　中央
徳永　晃　信嗣　下浜
河原　麻衣　茂　蔵王団地
大山　啓輔　茂人　今町
酒井　絢子　養一　上浜
新居田　隆　直　中塩入
今釜みゆき　久生　上浜
清水　嗣帆　学　中浜
吉永　由佳　大輔　西江口団地
井手向弥生　浩一　小鳥
前田　恵理　穂積　下新道
瀬戸口直貴　進　西江口団地
上塘　裕一　高芳　菖蒲谷上
犬童　恵美　良和　西浦西
池田　友香　明彦　南塩入
本村さやか　吉正　岩原西
箕浦　孝充　康博　原ノ門
大石　直樹　司　蔵王団地
津曲　美保　敏弘　須崎
久保田朋美　裕司　春日団地
福薗　舞子　昭二　春日団地
野崎　浩子　求　垂ノ口
西園　綾乃　幹生　蔵王団地

▽一月二十日までに住民票に記載された分を掲載いたしました。

ご寄付

香典返しのかわりにご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげますとともに故人のごめい福をお祈りいたします。（　）内は故人。

＝町社会福祉協議会へ＝

三万円　上浜　松田ヒサエ（夫彦三八〇）
十万円　蒲生田㈲福元みちえ（夫武志七〇）
三万円　今町　内村　トメ（夫栄二七五）
五万円　札立　餅原レイ子（夫正三七〇）
二万円　高井田　福元シヅ子（夫秋義六五）
三万円　下嶽　山口　親雄（父三蔵八五）
三万円　高井田　猪俣　吉夫（父精次九〇）
五十万円　於里　東　國雄（母ユワ八九）
五万円　城　湊　信子（夫安衛六二）
三万円　須崎　杉田　シヅ（夫朗七五）
三万円　西ノ原　吉村　和美（祖父清蔵八七）

＝町育英奨学資金へ＝

五万円　蒲生田㈲福元みちえ（夫武志）
二十万円　於里　東　國雄（母ユワ）

▽一月二十日までのご寄付を掲載いたしました。